

チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2009年8月NO.16

# SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“食べる”

5

食 -お米の収穫-

フィリピンの主食はご飯です。今でも、多くの地方で人手による稲刈りが行われています。収穫された稲は脱穀され、天日干しにされます。干し場が充分でない地方では、道路が干し場に早変わり。ほとんどのドライバーは、文句を言うでもなく、当たり前のように道路で干されている米を避けて運転します。

写真:センター19(ケソン州リアル)



**ChildFund**  
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。

特集

## 子どもの成長を支える

～ 子ども新聞の事例を通して ～



# 子どもの成長を支える

～ 子ども新聞の事例を通して ～

フィリピンで実施されているスポンサーシップ・プログラムは、右の三つの領域の活動から構成されています。「子どもの成長」支援というと、まず「教育支援」があげられますが、教育支援以外にも子どもたちの成長を支える様々な活動があります。今号では、センター19で行われている「子ども新聞」の活動を紹介します。



「子どもの成長」支援では

一人ひとりの子どもが持てる可能性を十分に発揮し、未来に夢をもって成長するために大切な教育、保健・医療、そして仲間づくりなどのプログラムを実施します。



## 子ども新聞とは？

・センター19のチャイルドとスタッフで作っているミニ新聞。年に1度発行し、取材や執筆、イラストなどをチャイルドたちが担当しています。地域でのできごとやスポンサーへの思いがチャイルド自身の言葉で紹介されています。

フィリピン

マニラ 19



センター19: インファンタ・コミュニティ・デベロップメント・センター 地域開発に携わるNGOである Infanta Integrated Community Development Assistance, Inc. (ICDAI) が運営している。

チャイルドのひとりが「子ども新聞」2008年号に寄稿した記事をご紹介します。

## 私はもう大丈夫

エメルリン・ラモス(ハイスクール2年生:2008年度)

私たち家族は、2004年11月29日に地域を襲った集中豪雨による土石流で被災しました。この災害は母を奪いました。この時以来、私をはじめ弟と二人の妹たちは悲しみにくれ、大雨が降ると恐怖感に襲われました。

うつ状態に陥った私は、センターを通して精神科医の治療を受ける機会を得ました。初めのうち自分の経験を口にするのは苦痛でした。しかし、精神科医の指導で行われるグループ活動やセンターが行う心理的なケアを目的とする

演劇活動に参加することを通して、私は一人ではなく、友だちの中にも同じように悲しい経験をしている仲間いることを理解することができました。徐々に悲しみと恐れから解放された私は、気持ちを文章にして表すことで、他の人と積極的な関係を築くことができるようになりました。

あれから三年が経ちましたが、私はもう大丈夫、勉強にも集中できます。天国の母に弟や妹たちの面倒をみることを約束します。そして、私の夢を実現することも。



記事を書いたエメルリンさん(中央)の家族。父親(左)、妹(手前)、祖母(右)、祖父(後方)



スタッフと話をするエメルリンさん(右)



被災によって壊れた家々:2004年撮影

## 悲しみを「表現して」乗り越える



この記事は、チャイルドとして支援を受けているエメルリン・ラモスさん(当時ハイスクール2年生)が書いたものです。土石流は一家が寝入った時に押し寄せました。その日、建設労働者のお父さんは90キロほど離れたルセナ市に出稼ぎに行っていて留守だったそうです。エメルリンさんと二人の妹たちは隣家の前まで、弟は家の近くを通る国道の反対側まで土石流によって流されましたが、一命を取り留めました。しかしお母さんは、隣家の塀のところで息絶えている姿で見つかりました。

三年という時間を必要としたものの、悲しみに打ちひしがれたエメルリンさんが「私はもう大丈夫」と言えるようになるには、スポンサーシップ・プログラムを通して行わ

れた緊急支援(スマイルズ14号参照)や通常のセンターでのサポートが必要でした。エメルリンさんが記した精神科医による心の傷をいやす治療に加えて、センターは、水、緊急食料、医薬品を支給しました。また、家を修繕する資材の提供にも取り組みました。さらには、地方自治体とも協力しながら、田畑を覆った流木や土石の除去や種苗の配布といった復興活動も行いました。その上で、チャイルドたちは、「作文ワークショップ」やサマーキャンプなどの活動を通して、自分をふりかえる機会や自分を表現する機会が提供されてきました。これらの活動は全てスポンサーのご支援により、実施されています。

取材:小林 毅

## センター長の ネリベス・メルカドさんにインタビュー



センター長のネリベス・メルカドさん  
2006年にセンター長に就任

**Q 「子ども新聞」のねらいを教えてください。**

**A** この活動は前任者が1997年に始めたものです。スポンサーの皆様からご支援いただくチャイルドたちが持っている才能や可能性を引き出すためです。

**Q 具体的にどのように活動を展開しているのですか?**

**A** 2006年、チャイルドたちは「文章表現」、「芸術」、「演劇」などの領域から関心事を選び、センターがそれぞれの領域で行なう活動に参加しました。「文章表現」のグループは、二日間の「書き方ワークショップ」を行いました。その後、チャイルドたちの中には「子ども新聞」の編集スタッフになった子どもたちがいます。2006年以降は、今説明した活動はチャイルドたちが参加して行われる二泊三日のサマーキャンプに含めるようにしています。今年もキャンプを4月に行いました。

**Q 文章表現を学ぶことでチャイルドはどのような変化をするのですか?**

**A** 書くことは、自分をふりかえる機会や気持ちを整理する機会になります。エメルリンの記事はその代表的な例です。また、書くために読書量が増えたり、学校で行われる国語や英語の授業が楽しくなったと言うチャイルドたちもいます。

**Q なぜ「子ども新聞」という形にしたのですか?**

**A** 自分で書いた文章が記事として「新聞」に掲載されることは子どもたちに自信を与えます。貧しい子どもたちの存在はしばしば見過ごされてしまいます。この活動は、自分の存在を主張できる良い機会となっています。

# 子どもの成長を支える

～ 子ども新聞の事例を通して ～

## 「子ども新聞」の編集スタッフ大集合!!

編集スタッフとはチャイルドとセンタースタッフで構成され、企画・取材・執筆をこなします。



「子ども新聞」編集スタッフのチャイルドたち(センターにて)



ジョリンさん (大学2年生)



\*「若者と起業家」のテーマで、地域の人々に貢献する「社会起業家」の可能性について記事を書きました。

私は2008年に行われたサマーキャンプで「文章表現」を学びました。それから小説を書くことに挑戦しています。また、気持ちが落ち着かないことがあると、気持ちを整理するために文章を書きます。友だちにも親にも絶対に言えない秘密を文章にすることもあります。そして、それを燃やしてしまいます。そうすると、気分がすっきりして、落ち着きます。今までに何枚位燃やしたかですって? 50枚以上は燃やしました。



エドガー君 (大学2年生)

「作文ワークショップ」で文章表現のルールを学びました。文章を書きたくなる時は一人静かになる時。母親に叱られた時などはどういう訳か執筆意欲が高まります。大学では、学校新聞「ヘラルド」の2009年度編集委員にも就任しています。



2008年度号では、前ページで紹介した台風被災の記事をはじめ、今年の春ハイスクールを卒業した先輩チャイルドたちに抱負を聞いたインタビュー記事(左)やチャイルドたちが描いたイラスト集「母なる地球を守る」なども掲載しました。

## 取材後記

### ～「機会」が「成長」を支える

ご協力くださる皆様に、スポンサーシップ・プログラムによる支援の広さをお伝えたいと願って、2004年に集中豪雨による土石流で被災したセンター19を訪ねました。被害を受けた家々の建て替えが進み、土石に埋もれた田畑でも農業が再開されています。また、ご紹介するエメルリンさんのように、被災した子どもたちが、スポンサーシップ・プログラムにより機会を得て、

立ち直っていることを知り、安堵しました。26年間にわたり国際協力に携わった経験から、私は開発途上国の人々、特に子どもたちから能力を伸ばす機会が奪われていると感じます。スポンサーシップ・プログラムは、厳しい現実に直面する子どもたちに機会を提供して、本来持っている能力を伸ばしながら成長を支援することができることを改めて確認しました。

(事務局長 小林 毅)



## 「子どもの成長」を支える様々なセンター活動

今回特集した「子ども新聞」以外に、フィリピンの21カ所のセンターでは「環境問題」「異文化・宗教の相互理解」「子どもの権利」など地域の問題に根ざした活動を行っています。各センターの取り組みは、毎年秋にお届けしている『チャイルドの成長記録』同封の「センター長活動報告」をご覧ください。



リサイクルについて学んだ後で、身近な素材を使って、カードを作るチャイルドたち(センター43)

## スリランカから アーユボワン

vol.3



6名の方から  
返事が遅い…

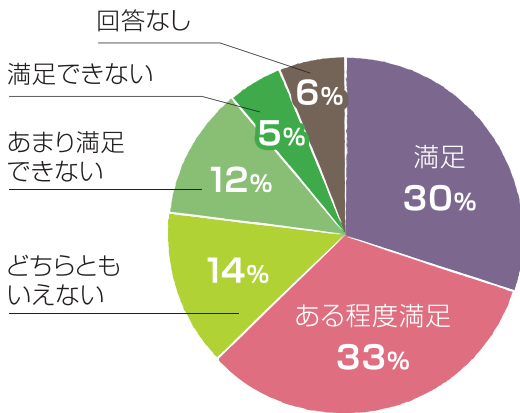
できる限り早くお届けするよう努めていますが、郵送、翻訳(日本語、英語、現地語)に時間がかかること、チャイルドたちが不便な地域に住んでいることから、お返事のお届けまでに約4ヶ月いただいています。どうぞご理解ください。

アーユボワン：シンハラ語で「こんにちは」

### 文通についての 「なぜ？」にお答えします！

スポンサーの皆様へのアンケート(p.7ハロハロのページ参照)で、文通についてもお聞きしました。

チャイルドとの文通について  
ご感想をお聞かせください。



スリランカで現地語から英訳をする際タイプするよう依頼していますが、タイプを使える人が少なく、まだ全てのお手紙をカバーできないのが現状です。申し訳ございません。タイプをご希望の方はお手数ですが東京事務局までご連絡ください。

5名の方から  
手書きの  
英語訳が  
読みにくい…

11名の方から  
家族の代筆はなぜ？  
内容がいつも同じ

チャイルド本人のお手紙が欲しいというお気持ち、もっともです。スリランカ事務所にも伝えてまいります。一方、チャイルドにとって自分の気持ちを文章で表現するのは簡単なことではありません。手紙を書く習慣があまりないことに加え、スリランカの言語は話し言葉と書き言葉の文法が異なり、「書く」ことは小学校低学年までは難しい子が多いようです。

代筆の場合も、家族が手紙を書くことに慣れるまで同じような内容になることがあります。回数を重ねるにつれそのチャイルドと家族らしさが出てくることと思いますので、長い目で見守っていただけると幸いです。(代筆については「SMILES13号」もあわせてご覧ください)

皆様がチャイルドをより身近に感じ、喜びを持って交流していただけるよう、文通をしやすくするサービスを検討し、文化・生活情報をこのコーナーで紹介してまいります。どうぞお楽しみに！



ヌワラエリヤの広大な紅茶農園

## 「スリランカ 3番目の地域で支援開始！」

2009年4月より、スリランカに3番目の支援地域が加わりました。中部の高原地帯、ヌワラエリヤ県にある「ティーフィールド・チルドレンズ・プログラム(T-field Children's Program)」です。ヌワラエリヤは紅茶の産地。紅茶農園では労働者が長時間、低賃金で働いています。また、狭い長屋に複数の世帯が暮らし、トイレが無いなど、生活のインフラが整っていない世帯が多くあります。チャイルドの家庭は紅茶農園や農業などの労働者として生計を立てていますが生活は厳しい状況です。スポンサーシップ・プログラムを通して子どもの就学、住環境の改善、協同組合による生活向上などへの支援を行います。

現在、チャイルド・ファンド・ジャパンが支援しているプロジェクト

## パラワン族生活改善プロジェクト [ 合同修了式がおこなわれました ]



フィリピン

- 【ネパール】
  - ▶ 保健行政システムのキャパシティ・ビルディングによるネパール女性と子供の栄養改善計画
  - ▶ オカルドウンガ地域病院事業
- 【フィリピン】
  - ▶ パラワン族生活改善プロジェクト

- 協力期間：2003年6月1日～2009年5月31日(2009年10月1日より第3期開始)
- 支援対象：パラワン州ブルックスポイント町に住むパラワン族300世帯
- 協力団体：AMP-IPM\* (Augustinian Missionaries of the Philippines Indigenous Peoples Mission)

\*カトリック修道会内の福祉部門。少数民族パラワン族の文化継承、保健・栄養改善・教育活動を行う。

このプロジェクトの第2期の締めくくりとして、保育プログラムと識字教室の合同修了式が、5月17日におこなわれました。修了式には教育・文化・スポーツ省(日本の文部科学省にあたる)の職員や村長はじめ村の役員も参列しました。修了者は、学齢前の子どもたちから60歳を越えたと思われるおばあさん(自分の年齢が正確に分からない)まで約80名です。一年間にわたって保育プログラムへ参加した子どもたちは、修了式に参加することをやや誇らしげにしています。識字教室の修了者の中には、ゲストの前で恥ずかしがる人もいますが、ほとんどの参加者は嬉しそうです。会場は、スマイルズ14号のインフォメーション・コーナーでご紹介した故細野雅央様のご寄附で建設された教育センターです。完成した建物は、今後、保育プログラムや識字教室の教員ボランティアの研修などにも用いられます。



式に出席するため整列する修了者たち



細野様のご寄附で建設された「教育センター」

スマイルズ15号で「事業終了まで半年を残して」と報告しましたが、パラワン族が住む他の村への支援を含めて、10月1日から「第3期パラワン族生活改善プロジェクト」が始まります。



## ～5周年記念プロジェクト～

### 5周年に向け、企画が動き始めます。ぜひ、ご協力ください!

2010年、チャイルド・ファンド・ジャパンは設立5周年を迎えます。(CCWAからの法人変更から5年、活動実績は35年になります。)皆様のご支援により、チャイルド・ファンド・ジャパンとして、5年間活動を継続することができました。心よりお礼を申し上げます。事務局は、5周年を記念し、TSUNAGARI PROJECT(つながり・ぶろじえくと)の一環として、プロジェクトを立ちあげます。(期間は2010年9月から12月を予定)スタッフ一同、皆様とともにこのプロジェクトを作りあげていきたいと願っています。

### イベントのアイデア募集



で実施するイベントのアイデアを皆さんから募集します。

現在実施を予定している内容は

**映画制作**.....  
チャイルドの生活やスポンサーの方々を紹介する予定です

**活動報告会**.....  
映画上映会+報告会を予定しています。  
「こんなイベントはできないのか?」や「こんなことはどうか」など、何かアイデアがございましたらご連絡ください。ご協力をよろしくお願いたします。

締め切り：2009年9月30日  
連絡先：特定非営利活動法人  
チャイルド・ファンド・ジャパン  
〒167-0041  
東京都杉並区善福寺2-17-5  
TEL: 03-3399-8123  
FAX: 03-3399-0730  
E-mail: childfund@childfund.or.jp

\* ハロハロとはタガログ語(フィリピン語)で“いろいろ”“まぜこぜ”という意味です。  
このページは読者の皆様からのリクエストや投稿などをもとにするページです。

# ハロハロのページ

## アンケート結果ご報告

チャイルド・ファンド・ジャパンは、支援者の皆様へより良い情報を提供するため、チャイルドの「成長記録」について、過去2年にわたりアンケートを実施しました。ご協力くださった皆様、ありがとうございます!集計結果をご報告いたします。(紙面の都合により、全てのご意見をご紹介できません。ご了承ください。)

### フィリピンのチャイルドの成長記録に関するアンケート

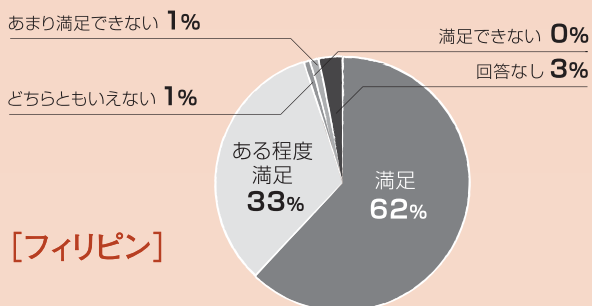
送付時期:2007年11月  
送付対象:2007年4月までにチャイルドをご紹介したスポンサー約2,000名  
回答数:199(回答率 9.9%)

### スリランカのチャイルドの成長記録と文通\*に関するアンケート

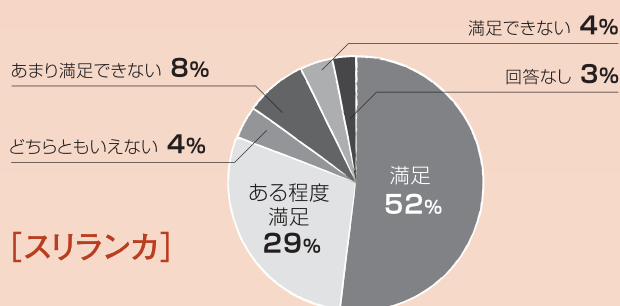
送付時期:2008年12月  
送付対象:2008年6月までにチャイルドをご紹介したスポンサー約400名  
回答数:66(回答率 16.5%)

\*スリランカのチャイルドとの文通については、「スリランカからアーユボーワン!」(p.5)をご覧ください。

### 1★「成長記録」の内容にご満足いただけましたか?



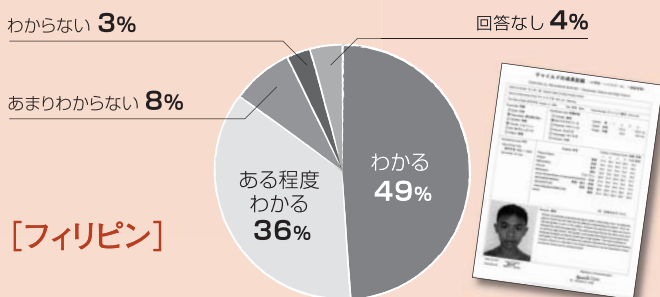
[フィリピン]



[スリランカ]

「ある程度満足」も含めるとフィリピンのスポンサーの方は95%、スリランカの方は81%が「満足」とお答えくださいました。理由として、写真を通してチャイルドの成長や元気な様子を確認することができた点が大きかったようです。一方、「満足できない」理由の多くは、生活面、学習面などチャイルドの成長が具体的に分からない点でした。

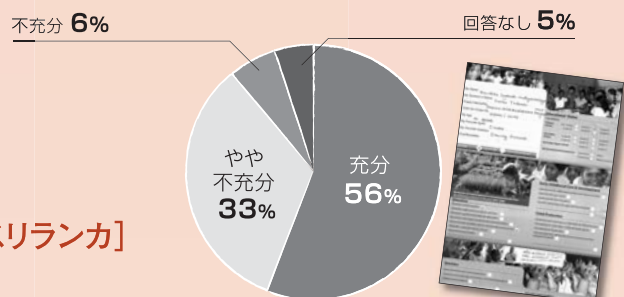
### 2★【フィリピン】備考欄(Remarks)の記述内容からチャイルドの様子や支援活動についてわかりいただけましたか?



[フィリピン]

フィリピンのチャイルドの成長記録には、各チャイルドの一年の変化を記述した「備考欄(Remarks)」があります。備考欄によって、チャイルドの様子や支援活動が「わかる」「ある程度わかる」とされた方は8割以上にのぼりました。一方、家族の生活改善の様子や具体的な活動がわからないとのご意見もありました。今後は、家族や地域への活動について、より具体的にご報告できるよう工夫します。

### 3★【スリランカ】チャイルドの様子や支援活動の情報は十分に記載されていましたか?



[スリランカ]

スリランカのチャイルドの成長記録は、支援の内容をチェック方式で記載しています。情報の充実度については、「やや不十分」、「不十分」を合わせると約4割にのぼり、支援活動やチャイルドの日常生活について詳しい記述を希望する声が多く寄せられました。事務局では、皆様の声をスリランカ事務所と共有し、チャイルドの成長や支援について充実した情報をお届けできるよう改善策を検討します。

その他、チャイルド自身のこと(食事や遊び、将来の夢)、支援終了・卒業後の様子を知りたい、などのご意見を沢山いただきました。「チャイルドの絵は私の宝物」というあたたかいメッセージも。今回いただいた皆様の声をしっかりと受け止め、「支援をしてきて良かった」と実感していただけるよう、ご報告する情報の質の向上に努めます。

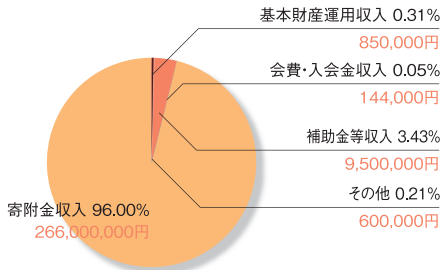
# インフォメーション コーナー

## 2009年度予算の概要

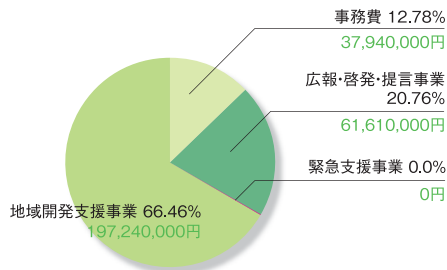
2009年3月9日にチャイルド・ファンド・ジャパンの総会が開かれ、2009年度の事業計画と予算が承認されました。厳しい予算ですが、収支が改善するよう心がけて参ります。引き続き皆様のご支援を心からお願い申し上げます。

次期繰越収支差額 38,600,614  
 (前期繰越収支差額 58,296,614)  
 (当期収支差額 -19,696,000)

収入の部 277,094,000円



支出の部 296,790,000円



## 緊急支援実施中!

### フィリピン: 台風被害緊急支援

5月7日にルソン島を西から東に抜けた台風2号は、協力センターのある、アラミノス(センター21)を直撃し、大きな被害をもたらしました。チャイルドの家族の37世帯の家屋が全壊、101世帯が半壊しました。センター21では、家屋の資材などを支援しました。  
**募金目標:200万円**



倒壊した家の前に立つ家族(フィリピン)

### スリランカ: 国内避難民緊急支援

5月17日に内戦は終結しましたが、国内避難民の数が増大しています。同国北部の避難キャンプでは30万人が、水・食糧・衣料品の不足など、不自由な生活を強いられています。チャイルド・ファンド・ジャパンは、チャイルド・ファンド・アライアンス(下記参照)のメンバー団体と協働し、最大の避難キャンプであるワウニアで子どもたちが心の傷を癒し、安心して身を寄せられるチャイルド・センター・スペースの運営を支援します。緊急支援活動全体では53万ドルの支援となりますが、チャイルド・ファンド・ジャパンは、そのうち3万ドルを支援します。  
**募金目標:300万円**



支援物資をもらう人々(スリランカ)

どうぞ、ご協力ください。緊急支援にご協力くださる方は、事務局までお問い合わせください。

## お願い ご家庭に眠っている古本を、今年も送ってください

### —チャリティ古本市2009開催決定!—

昨年に引き続き8月24日から28日まで企業5社に協力してチャリティ古本市を開催します。ご家庭に眠っている古本を、送ってください。今年は募集期間が短くなっておりませんが、ぜひご協力ください。

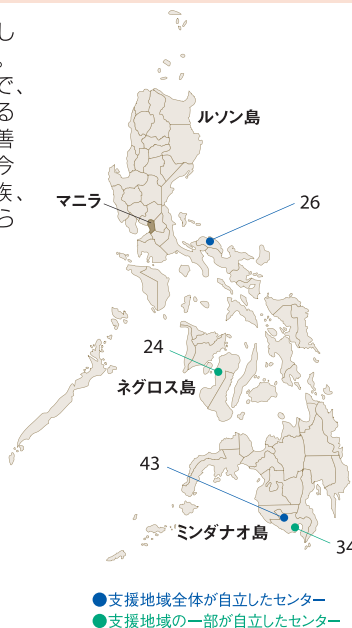
○お送りいただきたい本 ・文庫・新書(17×11cmのサイズ)・児童書・単行本(新書サイズより大きい、ハードカバーの本)

×受付けられないもの ・雑誌・週刊誌全般・コミック全般・非売品(同人誌・パンフレット等)

問い合わせ先:チャイルド・ファンド・ジャパン事務局  
 『チャイルド・ファンド・ジャパン古本市係』  
 住所 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5 担当 東方、伊藤まで。  
 電話 03-3399-8123 申し訳ございませんが、送料はご負担願います。  
 本の受け付け締め切りは**8月17日(月)**です。古本市の日時、場所など詳しい内容はチャイルド・ファンド・ジャパンのホームページに掲載しています。

## 報告 4つの地域のチャイルドと家族が「自立」を迎えました。

各センターでは、「自立」を目指してプログラムを実施しています。2009年5月末に4つの地域で、チャイルドの親たちが運営する住民組織が力をつけて生活改善がすすみ自立を迎えました。今後は成長したチャイルド、家族、地域の人々が、自らの力でさらなる地域の発展を目指します。



スポンサーシップ・プログラムで自分がどのように変わり、成長したか話し合うチャイルドたち。(センター26)

## 報告 『青山学院初等部ファミリーフェア』に参加しました!(5月23日)

『青山学院初等部ファミリーフェア』に参加して、今年3月にフィリピンの支援チャイルドを訪問した児童のみなさんを中心にスポンサーの募集をしました。4,700名以上の来場者があり、その中から20名以上の方々がお申込みくださいました。また、保護者の方々によるオリジナルTシャツやフィリピン産ドライマンゴーなどの販売を通して、15名のチャイルドを1年間支援してくださることになりました。



保護者の方から15名分のチャイルド支援金を受け取る小林事務局長(右)

ChildFund Japan

### Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンはここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

### ビジョン(目標)

すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成

### ミッション(使命)

生かし生かされる国際協力を通じて子どもの権利を守る

### チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ

<チャイルド・ファンドだより SMILES> 2009年8月発行  
 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5  
 特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン  
 理事長 深町正信(青山学院名誉院長) 事務局長 小林毅  
 TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730  
 E-mail:childfund@childfund.or.jp  
 URL:http://www.childfund.or.jp/

(デザイン)モスデザイン研究所  
 (印刷)有限会社東西印刷

